

「巻頭特集」 知立の秋の風物詩 秋葉まつり

勇壮な若衆が上げる 伝統の手筒花火

市内6町の若衆が長持唄を歌いながら町内を練り歩き、夜には知立神社境内で手筒花火を奉納する。

両手に花火を持って輪になる姿は圧巻。炎は7メートルを超え、観る人々はその迫力に息をのむ。秋葉まつりの季節がやってきた。

市内6町が執り行う わがまちの歴史ある秋祭り

秋葉まつりが開催される、知立神社境内。地元の若衆による手筒花火が奉納されると、観覧者から拍手と歓声が沸き起こる。秋の到来を告げる例祭は、長きにわたり市民に親しまれてきた。

祭りの歴史について、詳しい記録は残っていない。静岡県浜松市の秋葉山本宮秋葉神社が由来であり、かつて市内には末社があったと伝わる。その祭礼として受け継がれてきたという。『知立市史下巻』によると、末

社が市内に創建されたのは宝暦4（1754）年。秋葉山本宮秋葉神社より勧請されたといわれる。

「江戸時代、市内で大火が数度発生しました。火難よけの神様である秋葉山本宮秋葉神社の御札を祭っていた家屋が類焼を免れたという逸話から、末社は地域の守り神になったそうです」と話すのは知立市役所の鶴田常智さん。

秋葉まつりが初めて文献に登場するのは、1750年頃。秋葉山本宮秋

全員で力を合わせなければ、迫力ある火柱は上がりません

葉神社を信仰する地域の人々から、末社の祭礼を盛り上げる余興を依頼したと「中町祭礼帳」に記述が残る。余興の担当は細工人衆と呼ばれた、現在の若衆。その余興こそが秋葉まつりのルーツではないかといわれている。

独特の曲調がまちに響く 地域を練り歩く若衆の姿

祭りを運営するのは、市内6町（山町・山屋敷町・中新町・本町・西町・宝町）の有志。毎年6月、知立神社宮司より6町をまとめる当番町へ「煙火奉納」の依頼があり、当番町は「六カ町寄り会議」を招集して協議する。6町の賛同を得て、改めて「謹んでお受けします」と返答。一連の儀式を終えて、祭りの開催が決定する。

町ごとに惣代と若衆に分かれ、約2カ月前から祭りの準備を開始。玉箱練り歩きのための道路使用許可や火薬類消費許可などの事前準備は、中高年世代である惣代が担当。当日、衣装を身にまとい、まちを練り歩く人々が煙火連と呼ばれる若衆だ。

3週間前になると、各町の公民館に若衆が顔を揃えて「宿開き」を行う。祝儀のお返しに使う笹を作り、練り歩く際に歌う長持唄の稽古をするのだ。楽譜がないため、感覚を頼りに継承。独特の曲調は会得が難しく、若衆間で指導し合いながら受け継がれてきた。「毎年、先輩から後輩へと引き継がれています。簡単な

ようで、皆と息を合わせるのが難しいです」と話すのは、宝町煙火連の年行司・浜田竜之介さん。浜田さんの祖父と父親も参加していた経緯から、自身も若衆として祭りを支えるようになったという。

今年の当番町は宝町。煙火連には、地域住民を中心とした15人が在籍している。「煙火連には高校生から参加可能です。10〜20代中盤の比較的に若い年齢層が多いですね」と浜田さん。祭り当日、3人1組になった若衆が玉箱を担いでまちを練り歩く。長持唄を歌い、右へ左へと飛び跳ねる姿は、地域にとって馴染みある光景だ。若衆は地域住民からの寄付に感謝を込めて、町を一周する。

火の粉が全身に降り注ぐ 煙火連の迫力ある手筒花火

練り歩きを終えると、公民館へ戻り手筒花火奉納の準備に移る。日が暮れると知立神社境内にある秋葉神社への宮入が始まる。宮入後は、各町の若衆が神社前に介し、お祓いを受けて身を清め、煙火奉納の無事を祈願する。

手筒花火奉納には、大勢が足を運ぶ。手筒を両手に持った若衆10人が輪を作り、一斉に着火。夜空に向けて7mの炎を上げる。約260発もの花火が次々と上がり、迫力ある炎が見る人たちの目を奪う。一方で、若衆には火の粉が容赦なく降り注ぐ。



火の粉が降りかかるが手を離してはならない。炎を高く上げるには腕をまっすぐ伸ばし、顔を正面に向ける

宝町煙火連年行司・筆頭の前川和輝さんは「突き刺すような痛みがありますが、ひるんで手筒花火の角度を下げてはいけません。花火の魅力が半減するだけでなく、重大な事故にもつながる可能性があります」と言葉に力を込めます。

毎年、手筒花火に初参加する若衆もいる。そのため未経験者を経験者で扶むように並び、輪を作っている。「全員で力を合わせなければ、迫力ある火柱は上がりません」と笑顔を見せる前川さん。合間には1台200発の乱玉花火や仕掛け花火も打ち上がり、手筒花火と共に目にできる場面もある。

まちに長持唄が響き渡り、夜には手筒花火で盛り上がる秋葉まつり。勇壮な若衆の姿にも注目して、秋の祭りを楽しんでみてはいかがでしょうか。

information

秋葉まつり

9月23日[日・祝]

- 時間 / 各町の宮入は17時30分予定。その後、順次境内で手筒花火を披露
- 場所 / 知立神社境内（知立市西町神田12）
- 問い合わせ / 0566-81-0055（知立神社）

宝町煙火連の前川和輝さん(左)と浜田竜之介さん(右)

祭りの見どころとなる手筒花火。一斉に花火が上がる周囲に歓声が起こり、人々の目を奪う



惣代が見守る中、若衆がまちを練り歩く。玉箱には花火玉の代わりに石が入っている

(左)若衆が身にまとう法被は町ごとで色や柄が異なる (右)大人と共に簡易的な手筒花火を上げる子どもの姿も地域で見られる

